別紙1

2019/11/1

平成 30 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	02	01	186400	**道の駅整備事業**

総合計画			
	重点戦略		
	分野	暮らし	
	政策	2-2	生活基盤の充実
	施策	1	道路環境の充実

目的	道路利用者の利便性の向上、安全で快適な道路環境の形成と地域の振興
対象	西南地域（笹間・太田地区）
意図	道の駅について整備を進める

事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること

〇道の駅整備に向けた実施設計及び用地取得等　82,379千円
〇造成工事等　27,530千円
〇プロポーザル選考委員会報酬　16千円

市民参画の有無 〔 〕

市民協働の形態						
		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定
		後援・協賛		補助・助成		委託

	活動指標 （上記「事業概要」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	花巻市「（仮称）道の駅西南」整備検討委員会	回	計画	4	4	
			実績	4	0	
②	花巻市「（仮称）道の駅西南」隣接店舗事業者選考委員会	回	計画		0	
			実績		1	
③			計画			
			実績			

	成果指標 （上記「意図」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①			目標			
			実績			
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			

成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析
（新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）

道の駅整備が目的であり成果指標の設定が出来ないため。

目的妥当性	**公共関与の妥当性**		地域課題を解決していくためのもので、公共関与は妥当である。
	〇	妥当である	
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	**成果の向上余地**		基本構想の策定により、今後の西南地区への道の駅整備の規模、運営体制等決めていく必要がある。
	〇	向上余地がある	
		向上余地がない	
効率性	**事業費・人件費の削減余地**		事業費・人件費ともに、策定にかかる委託料や検討委員会、意見交換会にかかる最低経費であり、削減余地はない。
		事業費の削減余地がある	
		人件費の削減余地がある	
	〇	どちらも削減余地がない	
公平性	**受益と負担の適正化余地**		西南地区に整備する予定のものだが、市内に既存の３つの道の駅と役割分担を図りつつ、４つの道の駅が連携することにより、地域活性化を図っていくことが可能であり、適正である。
		受益機会の見直し余地がある	
		費用負担の見直し余地がある	
	〇	適正である	

総合評価 …上記評価結果の総括

道の駅を核とした地域の連携強化を図り、道路利用者に安全で快適な交通環境を提供するため、西南地区へ道の駅を整備することにより、地域課題である人口減少や高齢化、基幹産業である農業の活力低下、公共交通不便地域としての買い物難民の増加や食堂が無いなどの課題を解決しようとするものだが、今後,規模や施設レイアウト、運営体制等決めていくとともに、既存の道の駅との連携を図っていく必要がある。

平成 30 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 建設部 課名 道路課 担当係長 小原正吾 内線 544

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	01	186400	**道の駅整備事業**

単位：千円

		29年度 決算額(A)	30年度 決算額(B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		26,734	109,925		83,191
財源内訳	国・県				
	地方債		54,400		54,400
	その他		10,000		10,000
	一般財源	26,734	45,525		18,791

※特定財源の内訳

地方債：54,400（合併特例債　充当率95%）
その他：10,000（雑入：岩手県負担分）

事業期間	単年度繰返		期間限定	〔平成　年度　～　平成　年度〕

部重点施策における目標

安全で利便性の高い道路の整備を進める

事業開始の背景・経緯

平成26年2月に西南地域振興協議会から要望書が提出され、実施について検討を開始した。
平成28年3月に花巻市「（仮称）西南道の駅」基本構想を策定。
平成29年度に基本設計を実施。

事業概要　…目的を実現するための事業手法を記載すること

〇道の駅整備に向けた実施設計及び用地取得等　82,379千円
〇造成工事等　27,530千円
〇プロポーザル選考委員会報酬　16千円

意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）

（単位：千円）

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は１文章程度にとどめること。】

【整備概要】

〇整備面積内訳

整備主体	面積(㎡)	構成比
市	5,406	37.8%
県	2,813	19.7%
市（コンビニ等）	6,083	42.5%
計	14,302	

〇建物面積内訳

整備主体	面積(㎡)	構成比
市	707.48	74.3%
県	244.12	25.7%
計	951.60	

〇道の駅面積内訳

整備主体	面積(㎡)	構成比
市	5,406	65.8%
県	2,813	34.2%
計	8,219	

【30年度】

〇事業費内訳　109,925千円

- 実施設計業務委託（土木設計）　37,984千円
- 実施設計業務委託（建築設計）　18,360千円
- 登記測量業務委託　3,450千円
- 航空写真撮影業務委託　43千円
- 工事費（造成（一期）工事）　13,891千円
- 工事費（パイプライン移設工事）　13,639千円
- 用地取得費　9,977.22㎡　22,542千円
- 整備検討委員報酬（@4,000円×4名）　16千円

〇財源内訳

県負担金：10,000千円（不足分は翌年度以降で調整）
地方債　：54,900千円（合併特例債　充当率95%　交付税措置70%）

	起債対象外	起債対象	起債対象計算
土木実施設計	23,627	14,357	37,984千円×37.8%（整備面積案分）
建築実施設計	4,719	13,641	18,360千円×74.3%（整備面積案分）
登記測量	2,146	1,304	3,450千円×37.8%（整備面積案分）
航空写真撮影	43		
造成（一期）工事	4,755	9,136	13,891千円×65.8%（整備面積案分）
パイプライン移設工事	4,669	8,970	13,639千円×65.8%（整備面積案分）
用地取得費	12,071	10,471	
委員報酬	16		
計	52,046	57,879	←95%　54,900千円

【H30→31繰越事業】38,482千円

- 工事費（造成（二期）工事）　38,482千円

別紙1　　2019/11/1

平成 30 年度事業説明資料　【　事後評価　】

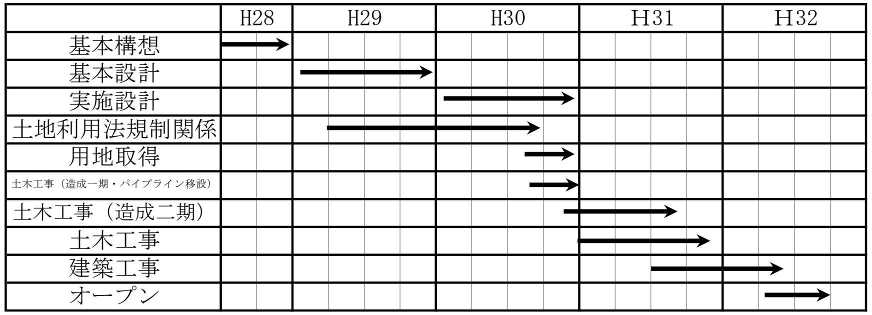
※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	02	01	186400	**道の駅整備事業**

（単位：千円）

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること　【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は１文章程度にとどめること。】

〇整備スケジュール



平成 30 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	02	02	184040	**生活道路維持事業（総括表）**

総合計画			
	分野	暮らし	
	政策	2-2	生活基盤の充実
	施策	1	道路環境の充実

目的	生活道路の維持管理
対象	道路利用者
意図	安全で快適な通行を確保する。

事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○市道維持管理（舗装修繕、除雪等）

市民参画の有無 〔 対象外 〕

市民協働の形態						
		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定
		後援・協賛		補助・助成		委託

	活動指標 （上記「事業概要」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	**当該年度の舗装修繕件数**	路線	計画	17	17	
			実績	43	40	
②	**当該年度の補修件数**	件	計画	250	250	
			実績	455	308	
③	**当該年度の除雪回数**	回	計画	10	10	
			実績	16	3	

	成果指標 （上記「意図」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	**当該年度の舗装修繕延長**	m	目標	7,000	7,000	
			実績	6,184	7,134	
②	**市の瑕疵による事故件数**	件	目標	0	0	
			実績	3	3	
③			目標			
			実績			

成果指標の達成度						
		目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析
（新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）

舗装補修について、概ね目標どおりの結果となったが、道路補修件数については、道路及び道路施設の老朽化に現在も地震の影響による道路沈下が現れていることから補修件数の目標値を上げる。

	評価項目		説明
目的妥当性	**公共関与の妥当性**		市道の管理は道路管理者である市が行うものであり、道路の維持補修を実施するのはこの事業だけである。
	○	妥当である	
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	**成果の向上余地**		舗装など道路の破損箇所については、道路パトロールや補修要望により毎日のように発見されているものの全てに対応出来ない状況であることから、道路パトロール、現地確認、補修対応と早期発見、早期補修につとめることで成果向上につながる。
	○	向上余地がある	
		向上余地がない	
効率性	**事業費・人件費の削減余地**		道路施設の劣化や破損は今後も進むことから、補修箇所が減少する可能性は少なく、安全確保に必要な維持補修事業費の削減余地はない。維持補修箇所への早期対応が必要不可欠であり、パトロールや現地調査、苦情処理等、迅速で確実な対応を効率的に行うための直営人員体制強化が望ましく人件費の削減余地はない。
		事業費の削減余地がある	
		人件費の削減余地がある	
	○	どちらも削減余地がない	
公平性	**受益と負担の適正化余地**		市が管理し、不特定多数が利用する市道の修繕・補修を行う事業であり、受益者は公平・公正になっている。
		受益機会の見直し余地がある	
		費用負担の見直し余地がある	
	○	適正である	

総合評価 …上記評価結果の総括

計画的に舗装修繕（オーバレイ）を行うため、早期発注を実施したことにより目標延長を達成することはできたが、平成２８年度まで０から１件であった道路が原因とする事故が、平成２９年度・平成３０年度は３件と、増となっている。

今後、良好な道路の維持管理を継続していくため、花巻市舗装長寿命化計画に則り計画的に舗装改修を行ってはいくが、道路パトロールや現場確認、補修対応、苦情処理等への迅速で確実な対応体制を確保していく必要がある。

平成 30 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 建設部 課名 道路課 担当係長 菊池 健児 内線 577

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	02	02	184040	**生活道路維持事業(総括表)**

単位：千円

		29年度 決算額(A)	30年度 決算額(B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		1,224,148	927,622		△ 296,526
財源内訳	国・県	52,282	74,411		22,129
	地方債		123,800		123,800
	その他	1,011	2,874		1,863
	一般財源	1,170,855	726,537	0	△ 444,318

事業期間	○	単年度繰返		期間限定	〔平成 年度 ～ 平成 年度〕

部経営方針における目標

安全、安心で快適な生活基盤の充実に努める。

事業開始の背景・経緯

市道の管理は道路管理者である花巻市が行うものであり、生活道路を安心して通行出来るようにするため。

事業概要

○市道維持管理（舗装修繕、除雪等）

事業を展開する上での課題、留意事項 ／ 意見・要望等

・現在６班体制で道路パトロールや道路補修を行っているが、増加する市民の要望に、年々減少する職員の状況と人口減少のためか臨時職員の作業員・運転手が確保できず、将来的には道路パトロールや直営作業員・運転手の確保が困難となっている。
したがって
・情報通信技術やAIなどを活用し、道路パトロールや補修作業の効率化を進める。
・道路利用者の安全確保のため、降雨時浸水が予想される箇所や、降雪や凍結時に危険となる箇所に設置したＷＥＢカメラ7台を活用しているが、さらに増設が必要かを検討する。

(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は１文章程度にとどめること。】

○ 市道の維持管理　701,976 千円

◇道路補修、路面・側溝清掃、除雪等業務

	全体	道路課	大迫	石鳥谷	東和
○オーバレイ補修	49,447	17,226	4,372	10,741	17,108
	15 ヶ所	4 ヶ所	2 ヶ所	5 ヶ所	4 ヶ所
○路面補修（クラック・段差・沈下・穴）、道路施設補修	185,115	65,240	35,632	32,405	51,838
○路面・側溝・暗渠清掃 （側溝･照明･法面･防護柵）	3,999	3,005	994	0	0
○施設保守点検（照明・排水ポンプ）	2,572	1,117	0	1,455	0
○融雪装置点検補修（花巻駅通り、里川口上町他）	18,340	18,193	0	147	0
○緑地等管理（街路樹・法面路肩除草・害虫駆除	42,329	25,196	2,998	6,595	7,540
○除雪 （延長1,885㎞） ・支障木伐採 等）	211,099	211,099	0	0	0
○補修資材（砕石・側溝・ガードレール 等）	19,829	10,340	1,769	3,328	4,392
○凍結防止剤、消耗品等	14,192	9,592	3,284	507	809
○内水対策(薬師堂川周辺市道)	33,048	0	0	33,048	0

◇道路照明・融雪施設電気料、建設機械修繕・燃料等
道路維持に係る諸経費

	全体	道路課	大迫	石鳥谷	東和
○電気・水道・通信料（照明・融雪施設・排水Ｐ電気）	28,091	21,522	445	3,061	3,063
○車両経費（ﾀｲﾔ・ﾁｪｰﾝ等消耗品、燃料、車両借上料、車検、車両購入）	31,197	7,281	9,089	5,326	9,501
○修繕料（道路照明、建設機械・パトロールカー等）	30,296	14,498	3,364	5,569	6,865
○道路賠償責任保険（延長 3,467㎞）	4,577	4,577	0	0	0
○その他（汚泥処理手数料、土地借上料等）	6,673	2,056	955	1,462	2,200

◇作業員・運転手・事務補助員

- ○作業員 3人（大迫）
- ○運転手 6人（通年：花2、大2、石0、東1、排雪期：花0）
- ○事務補助員 3人（花1、大1、石0、東1）
- ○事務補助員 1人（大迫）

全体	道路課	大迫	石鳥谷	東和
21,127	6,452	12,647	0	2,028

○ 除雪機械の購入　46,872 千円

更新機械	用途	経過年数	経費	備考
除雪車両	車道除雪	更新	46,872	交付金

○ 市道の維持工事　176,992 千円

施 設 名	内容	事業費	備 考
農道折壁線補修	道路補修	31,081	工事
林道細野線補修	道路補修	5,011	委託 1件
方八丁地下道融雪補修	道路補修	34,637	工事 1件 委託 1件
切削オーバーレイ舗装補修	舗装補修	93,667	工事 5件
大瀬川(1)線法面改修	法面補修	12,596	工事 委託2件・用地1件

○ 除雪費計算システム業務　1,782 千円

項 目	内 訳	経費	備考
除雪費計算システム	システム使用料+パソコン4台	1,782	

○ 防災ＷＥＢカメラ設置　0 千円

項 目	内 訳	経費	備考
防災ＷＥＢカメラ	モニター設置	0	0台

平成 30 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	03	184070	**生活道路整備事業**

総合計画	分野	暮らし	
	政策	2-2	生活基盤の充実
	施策	1	道路環境の充実
目的	地区要望を踏まえた道路整備		
対象	整備が必要な市道、市道利用者（車両、歩行者、沿線住民）		
意図	安全で快適な通行が可能になる。		

事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○生活道路整備
　測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託
　道路新設改良舗装工事、現道舗装工事、側溝整備工事、防雪柵整備工事
　事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償
【２８年度】
新設改良(44路線)、現道舗装(16路線)、側溝整備6路線)、融雪設備整備(1路線)
【２９年度】
新設改良（46路線）、現道舗装（28路線）、側溝整備（10路線）、融雪設備整備（2路線）
【３０年度】
新設改良（42路線）、現道舗装（3路線）、側溝整備（16路線）、~~融雪設備整備~~雪寒（2路線）

市民参画の有無 〔 対象外 〕

市民協働の形態			
	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定
	後援・協賛	補助・助成	委託

活動指標 （上記「事業概要」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
① 新設改良事業実施路線	路線	計画	46	42	
		実績	43	40	
② 現道舗装事業実施路線	路線	計画	28	3	
		実績	28	3	
③ 側溝整備事業実施路線	路線	計画	10	16	
		実績	10	15	

成果指標 （上記「意図」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
① 新設改良整備(完成)延長	km	目標	2.3	1.4	
		実績	4.8	2.3	
② 現道舗装整備(完成)延長	km	目標	6.3	0.5	
		実績	6.4	0.5	
③ 側溝整備(完成)延長	km	目標	2.2	1.3	
		実績	1.7	1.5	

成果指標の達成度		目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析
（新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）

完成路線数や事業費等を検討し、事業路線数と完成延長を決定しているため。

目的妥当性	公共関与の妥当性		市管理道路の整備のため、妥当である。
	○	妥当である	
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	成果の向上余地		本事業は、市道の新設改良、側溝整備を行うものであり、整備後は地域要望や道路環境を満足させた水準となることから、さらなる向上は難しい。
		向上余地がある	
	○	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地		事業を実施するうえでは、計画・設計・説明会・関係機関協議・用地取得・工事積算・工事監督業務など多岐にわたるが、現在でも効率的な事業の執行に努めている。 また、外部委託を行なうなど人件費の削減に努めているが、守秘義務等の問題があり、外部委託にも限界がある。
		事業費の削減余地がある	
		人件費の削減余地がある	
	○	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地		市道は不特定多数の人や車が利用するものであり、受益者を特定することは出来ない。
		受益機会の見直し余地がある	
		費用負担の見直し余地がある	
	○	適正である	

総合評価 …上記評価結果の総括

・道路整備に対する要望が多数寄せられている状況から、今後も継続的な整備が必要である。

平成 30 年度 事業説明資料　【 事後評価 】

担当部署　部名　建設部　課名　道路課　担当係長　駿河　世紀　内線　574

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	02	03	184070	**生活道路整備事業**

単位：千円

		29年度 決算額(A)	30年度 決算額(B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		1,725,627	874,126		△ 851,501
財源内訳	国・県	693,612	187,396		△ 506,216
	地方債	859,900	592,400		△ 267,500
	その他	2,005			△ 2,005
	一般財源	170,110	94,330		△ 75,780

※特定財源の内訳
・国／社会資本整備総合交付金
・地方債／過疎対策事業債　合併特例債　公共事業等債　辺地対策債

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	〔平成　年度　～　平成　年度〕

部重点施策における目標
安全で利便性の高い道路の整備を進める

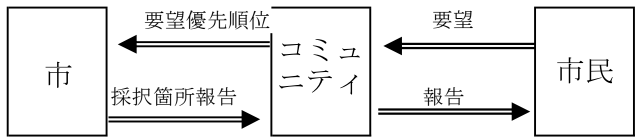
事業開始の背景・経緯
交通の中心が車となったことにより、道路整備が求められるようになる。

事業概要
○生活道路整備
　測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託
　道路新設改良舗装工事、現道舗装工事、側溝整備工事、防雪柵整備工事
　事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償
【２８年度】
新設改良(44路線)、現道舗装(16路線)、側溝整備6路線)、融雪設備整備(1路線)
【２９年度】
新設改良（46路線）、現道舗装（28路線）、側溝整備（10路線）、融雪設備整備（2路線）
【３０年度】
新設改良（42路線）、現道舗装（3路線）、側溝整備（16路線）、融雪設備整備雪寒（2路線）

意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）
土木施設整備要望等

（単位：千円）

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は１文章程度にとどめること。】



【30年度】
○ **新設改良**　平成30年度事業費　634,635千円
34路線　うち完了路線　2路線
完成延長　L=1.0km

○ **現道舗装**　平成30年度事業費　13,098千円
3路線　うち完了路線　2路線
完成延長　L=0.5km

○ **側溝整備**　平成30年度事業費　127,639千円
15路線　うち完了路線　1路線
完成延長　L=1.0km

○ **雪寒対策**　平成30年度事業費　81,252千円
2路線　うち完了路線　0路線
完成延長　L=0.4km

ほか法面・土工構造物長寿命化計画策定等　17,502千円

<H30→31繰越事業>　161,422千円　8路線
○ 新設改良　123,046千円　5路線
○ 側溝整備　16,800千円　2路線
○ 雪寒　21,576千円　1路線

平成 30 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	03	188590	**生活道路整備事業(繰越分)**

総合計画	分野	暮らし	
	政策	2-2	生活基盤の充実
	施策	1	道路環境の充実
目的	地区要望を踏まえた道路整備		
対象	整備が必要な市道、市道利用者（車両、歩行者、沿線住民）		
意図	安全で快適な通行が可能になる。		

事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○生活道路整備
　測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託
　道路新設改良舗装工事、現道舗装工事、側溝整備工事、防雪柵整備工事
　事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償
【２８年度】
新設改良(44路線)、現道舗装(16路線)、側溝整備6路線)、融雪設備整備(1路線)
【２９年度】
新設改良（46路線）、現道舗装（28路線）、側溝整備（10路線）、融雪設備整備（2路線）
【３０年度】
新設改良（42路線）、現道舗装（3路線）、側溝整備（16路線）、雪寒（2路線）

市民参画の有無 〔 対象外 〕

市民協働の形態			
	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定
	後援・協賛	補助・助成	委託

活動指標（上記「事業概要」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
① 新設改良事業実施路線	路線	計画	46	42	
		実績	43	40	
② 現道舗装事業実施路線	路線	計画	28	3	
		実績	28	3	
③ 側溝整備事業実施路線	路線	計画	10	16	
		実績	10	15	

成果指標（上記「意図」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
① 新設改良整備(完成)延長	km	目標	2.3	1.4	
		実績	4.8	2.3	
② 現道舗装整備(完成)延長	km	目標	6.3	0.5	
		実績	6.4	0.5	
③ 側溝整備(完成)延長	km	目標	2.2	1.3	
		実績	1.7	1.5	

成果指標の達成度		目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析
（新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）

完成路線数や事業費等を検討し、事業路線数と完成延長を決定しているため。

目的妥当性	公共関与の妥当性		市管理道路の整備のため、妥当である。
	○	妥当である	
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	成果の向上余地		本事業は、市道の新設改良、側溝整備を行うものであり、整備後は地域要望や道路環境を満足させた水準となることから、さらなる向上は難しい。
		向上余地がある	
	○	向上余地がない	
効率性	事業費･人件費の削減余地		事業を実施するうえでは、計画・設計・説明会・関係機関協議・用地取得・工事積算・工事監督業務など多岐にわたるが、現在でも効率的な事業の執行に努めている。 また、外部委託を行なうなど人件費の削減に努めているが、守秘義務等の問題があり、外部委託にも限界がある。
		事業費の削減余地がある	
		人件費の削減余地がある	
	○	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地		市道は不特定多数の人や車が利用するものであり、受益者を特定することは出来ない。
		受益機会の見直し余地がある	
		費用負担の見直し余地がある	
	○	適正である	

総合評価 …上記評価結果の総括

・道路整備に対する要望が多数寄せられている状況から、今後も継続的な整備が必要である。

平成 30 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 建設部 課名 道路課 担当係長 駿河 世紀 内線 574

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	03	188590	**生活道路整備事業(繰越分)**

単位：千円

		29年度 決算額(A)	30年度 決算額(B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		1,725,627	405,676		△ 1,319,951
財源内訳	国・県	693,612	126,798		△ 566,814
	地方債	859,900	262,500		△ 597,400
	その他	2,005			△ 2,005
	一般財源	170,110	16,378		△ 153,732

※特定財源の内訳
・国／社会資本整備総合交付金
・地方債／過疎対策事業債　　合併特例債　　公共事業等債　　辺地対策債

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	〔平成　　年度　～　平成　　年度〕

部重点施策における目標
安全で利便性の高い道路の整備を進める

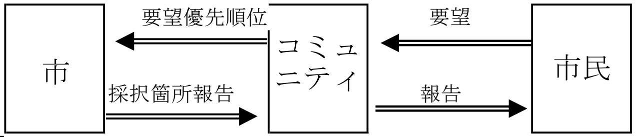
事業開始の背景・経緯
交通の中心が車となったことにより、道路整備が求められるようになる。

事業概要
○生活道路整備
　測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託
　道路新設改良舗装工事、現道舗装工事、側溝整備工事、防雪柵整備工事
　事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償
【２８年度】
新設改良(44路線)、現道舗装(16路線)、側溝整備6路線)、融雪設備整備(1路線)
【２９年度】
新設改良（46路線）、現道舗装（28路線）、側溝整備（10路線）、融雪設備整備（2路線）
【３０年度】
新設改良（42路線）、現道舗装（3路線）、側溝整備（16路線）、雪寒（2路線）

意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）
土木施設整備要望等

（単位：千円）

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は１文章程度にとどめること。】



【29年度】
○ **新設改良**　平成29年度事業費　589,630千円
40路線　内完了路線　0路線
完成延長　L=1.3km

○ **現道舗装**　平成29年度事業費　286,580千円
28路線　内完了路線　25路線
完成延長　L=6.4km

○ **側溝整備**　平成29年度事業費　137,984千円
10路線　内完了路線　0路線
完成延長　L=1.7km

○ **雪寒対策**　平成29年度事業費　18,153千円
2路線　内完了路線　0路線
完成延長　L=0km

ほか道路ストック総点検等　76,210千円

<H29繰越事業>　22路線　405,676千円　(416,289千円)　()内繰越予算
○ **新設改良**　385,490千円
21路線　内完了路線　2路線
完成延長　L=1.3km

○ **側溝整備**　20,186千円
1路線　内完了路線　0路線
完成延長　L=0.5km

平成 30　年度 事業説明資料　　【　事後評価　】

担当部署　部名　建設部　　課名　道路課　　担当係長　髙橋　裕哉　内線　550

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	02	04	184100	**橋梁維持事業(繰越分)**

単位：千円

		29年度 決算額(A)	30年度 決算額(B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		126,411	173,419		47,008
財源内訳	国・県	65,203	94,972		29,769
	地方債	8,600	68,100		59,500
	その他				0
	一般財源	52,608	10,347	0	△ 42,261

※特定財源の内訳
- 国／社会資本整備総合交付金
- 地方債／公共事業等債

事業期間　○　単年度繰返　　期間限定　〔平成　　年度　～　平成　　年度〕

部重点施策における目標

安全で利便性の高い道路の整備を進める

事業開始の背景・経緯

橋梁の老朽化対策として修繕工事している。ここ数年で耐用年数を超える橋梁が一気に増加するので、橋梁長寿命化修繕計画を策定し、それに基づき事業を展開している。

事業概要　…目的を実現するための事業手法を記載すること

○橋梁維持
　橋梁修繕設計、橋梁維持修繕工事、橋梁点検、橋梁予備設計

【27年度】
橋梁補修工事　1橋（朝日橋）　調査設計　1橋（猫塚南境橋）
【28年度】
橋梁補修工事　1橋（川原橋）　調査設計委託業務　3橋（横枕橋、東本館橋、中田橋）　橋梁定期点検　L≦15m 250 橋
【29年度】
橋梁補修工事　4橋（猫塚南境橋、横枕橋、東本館橋、中田橋）橋梁定期点検（L＜15m　50橋、JR橋1橋　L≧15m　JR橋　6橋）
調査設計委託業務　3橋（野田橋、松園橋、天下田橋）
【30年度】
橋梁補修工事　3橋（野田橋、松園橋、天下田橋）　橋梁点検（L<15m　　橋、L≦15m　　橋、JR橋　5橋）
調査設計業務　10橋

意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）

（単位：千円）

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は１文章程度にとどめること。】

【29年度】

	事業費	国費	地方債
・大沢橋（修繕設計）	6,070 千円	41,619 千円	2,400 千円
・橋梁点検L＜15m 50橋、JR橋1橋、L≧15 6橋JR橋	36,971 千円		
・朝日橋・井戸向橋	11,880 千円		
・北湯口跨道橋	3,915 千円		
・JR跨線橋(穴沢跨線人道橋外6橋)	27,966 千円		
・橋守事業	302 千円	ー 千円	ー 千円
・横枕橋、東本館橋、中田橋(繰越明許費)	17,588 千円	23,584 千円	6,200 千円
・橋梁点検L＜15m 126橋(繰越明許費)	21,719 千円		
合計	126,411 千円	65,203 千円	8,600 千円

【29年度→30年度繰越事業】

	事業費	国費	地方債
・天下田橋、松園橋、野田橋（修繕設計）	17,939 千円	9,965 千円	7,100 千円
・中田,猫塚南境,東本館,大沢,横枕橋梁補修工事	155,480 千円	86,369 千円	62,200 千円
合計	173,419 千円	96,334 千円	69,300 千円

平成 30 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	02	04	184100	**橋梁維持事業**

総合計画		
	重点戦略	
	分野	暮らし
	政策	2-2
	施策	1

目的	橋梁の維持管理
対象	道路利用者、市民、修繕が必要な橋梁
意図	橋梁修繕により、市内を安全で快適に移動できる。

事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○橋梁維持
橋梁修繕設計、橋梁維持修繕工事、橋梁点検、橋梁予備設計

【27年度】
橋梁補修工事 1橋（朝日橋） 調査設計 1橋（猫塚南境橋）
【28年度】
橋梁補修工事 1橋（川原橋） 調査設計委託業務 3橋（横枕橋、東本館橋、中田橋） 橋梁定期点検 L≦15m 250 橋
【29年度】
橋梁補修工事 4橋（猫塚南境橋、横枕橋、東本館橋、中田橋）橋梁定期点検（L＜15m 50橋、JR橋1橋 L≧15m JR橋6橋）
調査設計委託業務 3橋（野田橋、松園橋、天下田橋）
【30年度】
橋梁補修工事 3橋（野田橋、松園橋、天下田橋） 橋梁点検（L<15m 橋、L≦15m 橋、JR橋 5橋）
調査設計業務 10橋

市民協働の形態						
		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定
		後援・協賛		補助・助成		委託

	活動指標 （上記｢事業概要｣に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	**修繕橋梁数**	**橋**	計画	4	3	
			実績	0	3	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			

	成果指標 （上記｢意図｣に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	**修繕対象橋梁修繕率（H21～H35：全26橋）**	**%**	目標	42	54	
			実績	27	38	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			

成果指標の達成度						
		目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析
（新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）

修繕対象橋梁（H21～H35：全26橋）のうち、26年度までに4橋が修繕完了。
4橋／26橋＝約15%とした。
28年度までに朝日橋と折居橋、川原橋が修繕完了 7橋/26橋＝約27%
29年度は40橋が完了 7橋/26橋＝27%
30年度は3橋（野田橋、松園橋、天下田橋）が完了見込みであり、14橋/26橋＝54%としていたが、猫塚南境橋、東本館橋、中田橋の3橋が完了となり、10橋/26橋＝38%となる。
※H29年度実績で完了とされていた4橋について、年度内事業実施としてカウントしていた為、H30年度完了橋梁と重複となっているもの。

目的妥当性	**公共関与の妥当性** ○ 妥当である 見直し余地がある 妥当でない	・公共施設である橋梁の補修なので妥当である。
有効性	**成果の向上余地** 向上余地がある ○ 向上余地がない	・前年度に橋梁補修内容の調査設計を実施し、補修内容、予算について精度を上げている。 ・以前より上記内容に取り組み、橋梁長寿命化において成果をあげていることから、更なる向上は困難である。 ・公共物の老朽化は年々進むことから、現在の取り組みを維持し、継続的に事業を進める必要がある。
効率性	**事業費・人件費の削減余地** 事業費の削減余地がある 人件費の削減余地がある ○ どちらも削減余地がない	・前年度に個々の橋梁補修内容ついて調査設計を実施。 ・それにより適正な補修方法、内容を検討。 ・あわせてコスト縮減についても検討。 ・積算、施工管理に係る事務経費の適正な遂行に必要な最低限の事務を行っている。
公平性	**受益と負担の適正化余地** 受益機会の見直し余地がある 費用負担の見直し余地がある ○ 適正である	・公共施設であり、不特定多数が利用する橋梁の補修であることから、受益者負担は公平、公正である。

総合評価 …上記評価結果の総括

・橋梁長寿命化修繕計画に基づき、早期対策の必要な橋梁を優先して修繕している。
・その中でも、個々の橋梁修繕については前年度に調査設計を実施し、内容の精度を上げて事業費削減等に努めている。
・更なる修繕計画の効率性、経済性の向上を図るため次年度に計画見直しを実施する。

平成 30 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 建設部 課名 道路課 担当係長 髙橋 裕哉 内線 550

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	02	04	184100	**橋梁維持事業**

単位：千円

		29年度 決算額(A)	30年度 決算額(B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		126,411	206,945		80,534
財源内訳	国・県	65,203	114,496		49,293
	地方債	8,600	36,400		27,800
	その他				0
	一般財源	52,608	56,049	0	3,441

※特定財源の内訳
・国／社会資本整備総合交付金
・地方債／公共事業等債

事業期間	○	単年度繰返		期間限定 〔平成 年度 ～ 平成 年度〕

部重点施策における目標

安全で利便性の高い道路の整備を進める

事業開始の背景・経緯

橋梁の老朽化対策として修繕工事している。ここ数年で耐用年数を超える橋梁が一気に増加するので、橋梁長寿命化修繕計画を策定し、それに基づき事業を展開している。

事業概要 …目的を実現するための事業手法を記載すること

○橋梁維持
橋梁修繕設計、橋梁維持修繕工事、橋梁点検、橋梁予備設計

【27年度】
橋梁補修工事 1橋（朝日橋） 調査設計 1橋（猫塚南境橋）
【28年度】
橋梁補修工事 1橋（川原橋） 調査設計委託業務 3橋（横枕橋、東本館橋、中田橋） 橋梁定期点検 L≦15m 250 橋
【29年度】
橋梁補修工事 4橋（猫塚南境橋、横枕橋、東本館橋、中田橋）橋梁定期点検（L＜15m 50橋、JR橋1橋 L≧15m JR橋 6橋）
調査設計委託業務 3橋（野田橋、松園橋、天下田橋）
【30年度】
橋梁補修工事 3橋（野田橋、松園橋、天下田橋） 橋梁点検（L<15m 橋、L≦15m 橋、JR橋 5橋）
調査設計業務 10橋

意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）

（単位：千円）

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は１文章程度にとどめること。】

【30年度】

橋梁維持事業

・ 橋梁修繕設計 82,328千円
花川橋、絹川大橋、高瀬橋、熊堂橋、松雲台橋、新大曲橋、浮田橋、
猫塚橋、林崎橋、新川2号橋、安野川3号橋、八合田橋 計12橋

・ 橋梁点検 L≧15 149橋 111,428千円
（内５橋 JR跨線橋含む：白橋、黒橋、松原跨線橋、似内跨線橋、花輪跨線橋）

・ 橋守事業（事務費） 337千円

・ 修繕工事
野田橋、松園橋、天下田橋 12,852千円

【30年度→31年度繰越事業】

橋梁維持事業

・ 橋梁修繕設計 91,941千円
井戸向橋

・ JR4橋 耐震設計及び橋梁補修設計 50,296千円
万代橋、中央橋、新愛宕橋、穴沢跨線人道橋

・ 橋梁長寿命化計画策定・見直し L＜15m L＞15m 26,460千円

・ 修繕工事 177,311千円
大沢橋、横枕橋、花川橋、高瀬橋、林崎橋、
絹川大橋、松雲台橋、新大曲橋、浮田橋、猫塚橋、安野川3号橋 計11橋

平成 30 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	05	184130	**橋梁整備事業(繰越分)**

総合計画	分野	暮らし	
	政策	2-2	生活基盤の充実
	施策	1	道路環境の充実
目的	老朽化、狭あい幅員の橋梁架け替え		
対象	整備が必要な市道橋梁、市道利用者（車両、歩行者、沿線住民）		
意図	安全で快適な通行が可能になる。		

事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○橋梁整備
　橋梁架替工事

　平成２８年度
　豊沢橋：上部工桁製作工事（H28-29債務負担、下部工A1,P1,P2（H27-28債務負担）
　太田橋：上部工製作・上部工架設工事（H28年度完成予定）

　平成29年度
　豊沢橋：上部工桁製作工事（H28-29債務負担）　上部工桁架設工事（H29-30債務負担）取付道路改良舗装

　平成29年度

市民参画の有無 〔 対象外 〕

市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定
	後援・協賛	補助・助成	委託

	活動指標（上記「事業概要」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	**測量調査設計**	橋	計画	2	0	
			実績	2	0	
②	**橋梁工事及び取付道路工事**	橋	計画	2	1	
			実績	2	1	
③			計画			
			実績			

	成果指標（上記「意図」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	**整備（完成）率（天遊橋、似内橋、豊沢橋、太田橋）**	%	目標	75.0	100.0	
			実績	75.0	100.0	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			

成果指標の達成度						
		目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析
（新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）

・平成26年度似内橋完成（完成２橋/整備予定４橋＝整備率５０％）
・平成28年度太田橋完成（完成３橋/整備予定４橋＝整備率７５％）

	評価項目	選択	説明
目的妥当性	**公共関与の妥当性**		市管理橋の整備のため、妥当である。
	○	妥当である	
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	**成果の向上余地**		本事業は、市道橋梁の新設・架け替えを行うものであり、整備後は道路環境を満足させた水準となることから、さらなる向上は難しい。
		向上余地がある	
	○	向上余地がない	
効率性	**事業費･人件費の削減余地**		事業を実施するうえでは、計画・設計・説明会・関係機関協議・用地取得・工事積算・工事監督業務など多岐にわたるが、現在でも効率的な事業の執行に努めている。 また、外部委託を行なうなど人件費の削減に努めているが、守秘義務等の問題があり、外部委託にも限界がある。
		事業費の削減余地がある	
		人件費の削減余地がある	
	○	どちらも削減余地がない	
公平性	**受益と負担の適正化余地**		市道橋梁は不特定多数の人や車が利用するものであり、受益者を特定することは出来ない。
		受益機会の見直し余地がある	
		費用負担の見直し余地がある	
	○	適正である	

総合評価 …上記評価結果の総括

・橋梁整備の事業費は高額であるが、重要性、緊急性、要望等を検討し、必要な橋梁整備を今後も進める必要がある

平成 30 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 建設部 課名 道路課 担当係長 髙橋 裕哉 内線 550

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	02	05	184130	**橋梁整備事業（繰越分）**

単位：千円

		29年度 決算額(A)	30年度 決算額(B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		367,654	109,435		△ 258,219
財源内訳	国・県	204,063	59,976		△ 144,087
	地方債	147,000	41,300		△ 105,700
	その他				0
	一般財源	16,591	8,159	0	△ 8,432

※特定財源の内訳
・国／社会資本整備総合交付金
・地方債／公共事業等債

事業期間	○	単年度繰返		期間限定 〔平成 年度 ～ 平成 年度〕

部重点施策における目標
安全で利便性の高い道路の整備を進める

事業開始の背景・経緯
老朽化および交通量の増加に伴い、架け替えおよび拡幅による整備が必要となった。

事業概要
○橋梁整備
橋梁架替工事

平成２８年度
豊沢橋：上部工桁製作工事（H28-29債務負担、下部工A1,P1,P2（H27-28債務負担）
太田橋：上部工製作・上部工架設工事（H28年度完成予定）

平成29年度
豊沢橋：上部工桁製作工事（H28-29債務負担） 上部工桁架設工事（H29-30債務負担）取付道路改良舗装

平成29年度
豊沢橋：上部工架設（H29-30債務負担、取付道路（H29-H30債務負担、仮橋撤去）

意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）

（単位：千円）

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は１文章程度にとどめること。】

平成29年度橋梁整備事業
① 豊沢橋 事業費： 367,654千円（上部工製作H29現年分、上部工架設H29分、取付道路）
昭和8年 架橋
事業期間 平成20年度～平成30年度予定
橋梁延長 L=133.0m 幅員 W=15.0m

平成29年度→平成30年度橋梁整備事業
① 豊沢橋 事業費： 109,435千円（上部工架設H30分、取付道路H30分、仮設材撤去等、都市ガス、水道移設移転補償）
昭和8年 架橋
事業期間 平成20年度～平成30年度予定
橋梁延長 L=133.0m 幅員 W=15.0m

平成 30 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	02	05	184130	**橋梁整備事業**

総合計画		
分野	暮らし	
政策	2-2	生活基盤の充実
施策	1	道路環境の充実

目的	老朽化、狭あい幅員の橋梁架け替え
対象	整備が必要な市道橋梁、市道利用者（車両、歩行者、沿線住民）
意図	安全で快適な通行が可能になる。

事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○橋梁整備
橋梁架替工事

平成２８年度
豊沢橋：上部工桁製作工事（H28-29債務負担、下部工A1,P1,P2（H27-28債務負担）
太田橋：上部工製作・上部工架設工事（H28年度完成予定）

平成29年度
豊沢橋：上部工桁製作工事（H28-29債務負担） 上部工桁架設工事（H29-30債務負担）取付道路改良舗装

平成29年度

市民参画の有無 〔 対象外 〕

市民協働の形態			
	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定
	後援・協賛	補助・助成	委託

	活動指標（上記「事業概要」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	**測量調査設計**	橋	計画	2	0	
			実績	2	0	
②	**橋梁工事及び取付道路工事**	橋	計画	2	1	
			実績	2	1	
③			計画			
			実績			

	成果指標（上記「意図」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	**整備（完成）率（天遊橋、似内橋、豊沢橋、太田橋）**	%	目標	75.0	100.0	
			実績	75.0	100.0	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			

成果指標の達成度		目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析
（新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）

・平成26年度似内橋完成（完成２橋/整備予定４橋＝整備率５０％）
・平成28年度太田橋完成（完成３橋/整備予定４橋＝整備率７５％）

	評価項目		評価内容
目的妥当性	**公共関与の妥当性**		市管理橋の整備のため、妥当である。
	○	妥当である	
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	**成果の向上余地**		本事業は、市道橋梁の新設・架け替えを行うものであり、整備後は道路環境を満足させた水準となることから、さらなる向上は難しい。
		向上余地がある	
	○	向上余地がない	
効率性	**事業費・人件費の削減余地**		事業を実施するうえでは、計画・設計・説明会・関係機関協議・用地取得・工事積算・工事監督業務など多岐にわたるが、現在でも効率的な事業の執行に努めている。 また、外部委託を行なうなど人件費の削減に努めているが、守秘義務等の問題があり、外部委託にも限界がある。
		事業費の削減余地がある	
		人件費の削減余地がある	
	○	どちらも削減余地がない	
公平性	**受益と負担の適正化余地**		市道橋梁は不特定多数の人や車が利用するものであり、受益者を特定することは出来ない。
		受益機会の見直し余地がある	
		費用負担の見直し余地がある	
	○	適正である	

総合評価 …上記評価結果の総括

・橋梁整備の事業費は高額であるが、重要性、緊急性、要望等を検討し、必要な橋梁整備を今後も進める必要がある

別紙1

2019/11/1

平成 30 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 建設部 課名 道路課 担当係長 菊池 内線 550

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	05	184130	**橋梁整備事業**

単位：千円

		29年度 決算額(A)	30年度 決算額(B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		367,654	236,372		△ 131,282
財源内訳	国・県	204,063	123,387		△ 80,676
	地方債	147,000	89,100		△ 57,900
	その他		14,651		14,651
	一般財源	16,591	9,234	0	△ 7,357

※特定財源の内訳
・国／社会資本整備総合交付金
・地方債／公共事業等債

事業期間	○	単年度繰返		期間限定	〔平成　年度　～　平成　年度〕

部重点施策における目標

安全で利便性の高い道路の整備を進める

事業開始の背景・経緯

老朽化および交通量の増加に伴い、架け替えおよび拡幅による整備が必要となった。

事業概要

○橋梁整備
橋梁架替工事

平成２８年度
豊沢橋：上部工桁製作工事（H28-29債務負担、下部工A1,P1,P2（H27-28債務負担）
太田橋：上部工製作・上部工架設工事（H28年度完成予定）

平成29年度
豊沢橋：上部工桁製作工事（H28-29債務負担） 上部工桁架設工事（H29-30債務負担）取付道路改良舗装

平成29年度
豊沢橋：上部工架設（H29-30債務負担、取付道路（H29-H30債務負担、仮橋撤去）

意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）

（単位：千円）

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は１文章程度にとどめること。】

平成29年度→平成30年度橋梁整備事業

① 豊沢橋　事業費：　236,372千円（上部工架設H30分、取付道路H30分、
仮設橋撤去、都市ガス・電気通信線移転補償）
昭和8年　架橋
事業期間　平成20年度～平成30年度予定
橋梁延長　L=133.0m　幅員　W=15.0m

13節(委託費)　1,566千円（積算資料作成）
15節(工事費)　221,003千円(上部工架設、取付道路、仮設橋撤去)
22節(補償)　13,803千円(都市ガス・電気通信線移転補償)

平成 30 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	02	06	188620	**交通安全環境整備事業(繰越分)**

総合計画	分野	暮らし	
	政策	2-2	生活基盤の充実
	施策	1	道路環境の充実
目的	歩行者の安全確保		
対象	道路利用者、市民		
意図	安全に安心して通行できるようになる。		

事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること

〇交通安全施設整備測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託
歩道整備工事、電線地中化工事、融雪装置整備工事
事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償
【28年度】・歩道整備工事 ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等(吹張町滝ノ沢線、上小舟渡方八丁線、駅前南線3路線
・電線共同溝（上町成田線） １路線
【29年度】・歩道整備工事 （城内大通り一丁目線(城内工区)、上町成田線(南城工区)、
上小舟渡方八丁線、青雲台線） ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等(吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線) 6路線
・電線共同溝(上町成田線) 1路線 ・融雪設備 180m(上町成田線) 1路線
【30年度】・歩道整備工事 城内大通り一丁目線(花城町工区)、城内大通り一丁目線(城内工区)、
御田屋町鍛治町線外2路線、上町成田線(南城工区)、上小舟渡方八丁線)
ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等(吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線) 7路線
・電線共同溝 （上町花城町線） 1路線 ・融雪設備 （上町成田線） 1路線

市民参画の有無 〔 対象外 〕

市民協働の形態			
	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定
	後援・協賛	補助・助成	委託

	活動指標 （上記「事業概要」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	**当該年度の歩道整備事業実施件数**	件	計画	4	9	
			実績	3	8	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			

	成果指標 （上記「意図」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	**歩道整備（完成）延長**	Km	目標		1.0	
			実績		1.0	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			

成果指標の達成度		目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析
（新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）

完成路線数や事業費等を検討し、事業路線数と歩道整備延長を決定しているため。

	評価項目		説明
目的妥当性	**公共関与の妥当性**		・公共施設である道路の整備であるため妥当である。
	○	妥当である	
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	**成果の向上余地**		・現況の道路敷地内で有効的に歩道整備、段差解消を実施しているため、予算内での更なる向上は困難である。 ・今後も歩道整備等の要望に応えるため、現在の取り組みを維持し、事業を継続する必要がある。
		向上余地がある	
	○	向上余地がない	
効率性	**事業費・人件費の削減余地**		・歩道整備は、用地取得せずに現況道路敷地内を有効活用するなど工夫して経費の節減に努めている。 ・積算、施工管理に係る事務経費の適正な遂行に必要な、最低限の事務を行っている。
		事業費の削減余地がある	
		人件費の削減余地がある	
	○	どちらも削減余地がない	
公平性	**受益と負担の適正化余地**		・市道の整備であり、地域住民に限らず不特定多数が利用することから、市が整備するものであるため受益者負担は公平、公正である。
		受益機会の見直し余地がある	
		費用負担の見直し余地がある	
	○	適正である	

総合評価 …上記評価結果の総括

・市道整備は道路管理者である市が行うものであり、現況道路敷地内を有効活用するなど工夫して歩道整備を進め、コスト縮減等に努めている。

平成 30 年度 事業説明資料　　【　事後評価　】

担当部署　部名　建設部　　課名　道路課　　担当係長　駿河　　内線　574

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	02	06	188620	**交通安全環境整備事業(繰越分）**

単位：千円

		29年度 決算額(A)	30年度 決算額(B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		174,357	210,377		36,020
財源内訳	国・県	74,733	116,665		41,932
	地方債	49,200	83,800		34,600
	その他				
	一般財源	50,424	9,912		△ 40,512

※特定財源の内訳
・国／社会資本整備総合交付金
・地方債／公共事業等債　合併特例債

事業期間	○	単年度繰返		期間限定	〔平成　30　年度　～　平成　30　年度〕

部重点施策における目標
安全で利便性の高い道路の整備を進める

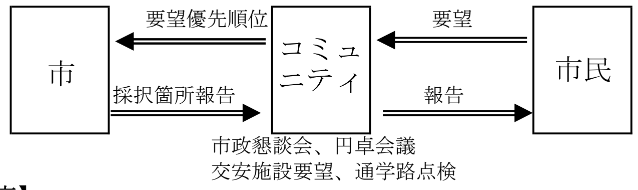
事業開始の背景・経緯
歩行者の安全確保のため、歩道の新設、ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ化を実施している。現在は各地域、障がい者団体等の要望に基づき、それぞれのニーズに応える手法により事業を展開している。

事業概要
○交通安全施設整備測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託
　歩道整備工事、電線地中化工事、融雪装置整備工事
　事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償
【28年度】・歩道整備工事 ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等(吹張町滝ノ沢線、上小舟渡方八丁線、駅前南線3路線
　　　　　・電線共同溝（上町成田線）　1路線
【29年度】・歩道整備工事　（城内大通り一丁目線(城内工区)、上町成田線(南城工区)、
　　　　　上小舟渡方八丁線、青雲台線）ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等(吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線)　6路線
　　　　　・電線共同溝(上町成田線)　1路線　　・融雪設備　180m(上町成田線)　1路線
【30年度】・歩道整備工事　城内大通り一丁目線(花城町工区)、城内大通り一丁目線(城内工区)、
　　　　　御田屋町鍛治町線外2路線、上町成田線(南城工区)、上小舟渡方八丁線)
　　　　　ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等(吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線)　7路線
　　　　　・電線共同溝　(上町花城町線)　1路線　・融雪設備　(上町成田線)　1路線

意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）

（単位：千円）

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は１文章程度にとどめること。】



【29年度】
・交通安全施設整備　7路線
　（上町成田線（融雪・南城工区）・吹張町滝ノ沢線・上小舟渡方八丁線
　・城内大通り一丁目線（城内工区）・上台朝日橋線・青雲台線）

事業費　127,848千円
　委託料　80,888千円
　工事費　114,000千円
　用地費　0千円
　補償費　46,000千円

委託料（各支所分）	
・大迫	10,340千円
・石鳥谷	5,485千円
・東和	4,957千円
合計	20,782千円

〈H29繰越事業〉　5路線　210,377千円　（214,780千円）　() 内繰越予算
・委託　43,515千円
　城内大通り一丁目線（城内工区）、上町成田線（共同溝）、吹張町滝ノ沢線、
　青雲台線
・歩道工事　166,679千円
　吹張町滝ノ沢線　47,337千円　L=0.4km
　上台朝日橋線　75,958千円　L=0.3km
　青雲台線　43,384千円　L=0.3km
・補償　183千円
　吹張町滝ノ沢線

平成 30 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	02	06	184160	**交通安全環境整備事業**

総合計画	分野	暮らし	
	政策	2-2	生活基盤の充実
	施策	1	道路環境の充実

目的	歩行者の安全確保
対象	道路利用者、市民
意図	安全に安心して通行できるようになる。

事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること

〇交通安全施設整備測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託
歩道整備工事、電線地中化工事、融雪装置整備工事
事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償
【28年度】・歩道整備工事 ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等(吹張町滝ノ沢線、上小舟渡方八丁線、駅前南線3路線
・電線共同溝（上町成田線） １路線
【29年度】・歩道整備工事 (城内大通り一丁目線(城内工区)、上町成田線(南城工区)、
上小舟渡方八丁線、青雲台線) ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等(吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線) 6路線
・電線共同溝(上町成田線) 1路線 ・融雪設備 180m(上町成田線) 1路線
【30年度】・歩道整備工事 城内大通り一丁目線(花城町工区)、城内大通り一丁目線(城内工区)、
御田屋町鍛治町線外2路線、上町成田線(南城工区)、上小舟渡方八丁線)
ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等(吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線) 7路線
・電線共同溝 (上町花城町線) 1路線 ・融雪設備 (上町成田線) 1路線

市民参画の有無 〔 対象外 〕

市民協働の形態			
	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定
	後援・協賛	補助・助成	委託

	活動指標 (上記「事業概要」に対応)	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	**当該年度の歩道整備事業実施件数**	件	計画	4	9	
			実績	3	8	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			

	成果指標 (上記「意図」に対応)	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	**歩道整備（完成）延長**	Km	目標		1.0	
			実績		1.0	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			

成果指標の達成度						
		目標値より高い	〇	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析
（新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）

完成路線数や事業費等を検討し、事業路線数と歩道整備延長を決定しているため。

目的妥当性	**公共関与の妥当性**		・公共施設である道路の整備であるため妥当である。
	〇	妥当である	
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	**成果の向上余地**		・現況の道路敷地内で有効的に歩道整備、段差解消を実施しているため、予算内での更なる向上は困難である。 ・今後も歩道整備等の要望に応えるため、現在の取り組みを維持し、事業を継続する必要がある。
		向上余地がある	
	〇	向上余地がない	
効率性	**事業費･人件費の削減余地**		・歩道整備は、用地取得せずに現況道路敷地内を有効活用するなど工夫して経費の節減に努めている。 ・積算、施工管理に係る事務経費の適正な遂行に必要な、最低限の事務を行っている。
		事業費の削減余地がある	
		人件費の削減余地がある	
	〇	どちらも削減余地がない	
公平性	**受益と負担の適正化余地**		・市道の整備であり、地域住民に限らず不特定多数が利用することから、市が整備するものであるため受益者負担は公平、公正である。
		受益機会の見直し余地がある	
		費用負担の見直し余地がある	
	〇	適正である	

総合評価 …上記評価結果の総括

・市道整備は道路管理者である市が行うものであり、現況道路敷地内を有効活用するなど工夫して歩道整備を進め、コスト縮減等に努めている。

平成 30　年度 事業説明資料　　　　【　事後評価　】

担当部署　部名　建設部　　課名　道路課　　担当係長　駿河　　内線　574

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	02	06	184160	**交通安全環境整備事業**

単位：千円

		29年度 決算額(A)	30年度 決算額(B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		174,357	191,236		16,879
財源内訳	国・県	74,733	79,962		5,229
	地方債	49,200	65,400		16,200
	その他				
	一般財源	50,424	45,874		△ 4,550

※特定財源の内訳
・国／社会資本整備総合交付金
・地方債／公共事業等債　合併特例債

事業期間	○	単年度繰返		期間限定	〔平成　　年度　～　平成　　年度〕

部重点施策における目標
安全で利便性の高い道路の整備を進める

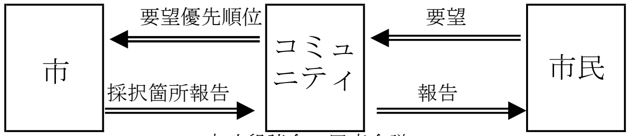
事業開始の背景・経緯
歩行者の安全確保のため、歩道の新設、ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ化を実施している。現在は各地域、障がい者団体等の要望に基づき、それぞれのニーズに応える手法により事業を展開している。

事業概要
○交通安全施設整備測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託
　歩道整備工事、電線地中化工事、融雪装置整備工事
　事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償
【28年度】・歩道整備工事 ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等(吹張町滝ノ沢線、上小舟渡方八丁線、駅前南線3路線
　・電線共同溝（上町成田線）　１路線
【29年度】・歩道整備工事　（城内大通り一丁目線(城内工区)、上町成田線(南城工区)、
　上小舟渡方八丁線、青雲台線）ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等(吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線)　6路線
　・電線共同溝(上町成田線)　1路線　　・融雪設備　180m(上町成田線)　1路線
【30年度】・歩道整備工事　城内大通り一丁目線(花城町工区)、城内大通り一丁目線(城内工区)、
　御田屋町鍛治町線外2路線、上町成田線(南城工区)、上小舟渡方八丁線)
　ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等(吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線)　7路線
　・電線共同溝　(上町花城町線)　1路線　・融雪設備　(上町成田線)　1路線

意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）

（単位：千円）

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は１文章程度にとどめること。】



市政懇談会、円卓会議
交安施設要望、通学路点検

【29年度】
・交通安全施設整備　　7路線
　（上町成田線（融雪・南城工区）・吹張町滝ノ沢線・上小舟渡方八丁線
　・城内大通り一丁目線（城内工区）・上台朝日橋線・青雲台線）

事業費　127,848千円
　委託料　80,888千円
　工事費　114,000千円
　用地費　0千円
　補償費　46,000千円

委託料（各支所分）	
・大迫	10,340千円
・石鳥谷	5,485千円
・東和	4,957千円
合計	20,782千円

【30年度】
・交通安全施設整備　　7路線
　城内大通り一丁目線(花城町工区)、御田屋町鍛治町線外2路線、上町成田線(南城工区)、吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線、上町花城町線（電線共同溝）、上町成田線（融雪設備）

事業費　170,744千円
　委託料　40,237千円
　　内交通安全施設整備委託　22,362千円
　工事費　115,410千円
　用地費　0千円
　補償費　15,097千円

委託料（各支所分）	
・大迫	10,499千円
・石鳥谷	4,995千円
・東和	4,998千円
合計	20,492千円

<H30→H31繰越事業>　　95,037千円　5路線
城内大通り一丁目線(花城町工区)、城内大通り一丁目線(城内工区)、吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線、上町花城町線（電線共同溝）

平成 30 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	01	01	184610	**花巻スマートインターチェンジ整備事業**

総合計画			
	分野	暮らし	
	政策	2-2	生活基盤の充実
	施策	1	道路環境の充実

目的	道路利用者の利便性の向上、安全で快適な道路環境の形成と地域の振興
対象	高速道路利用者
意図	花巻パーキングエリアにスマートインターチェンジを整備する

事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること

1 広域的検討
国・県・市・NEXCO東日本の関係機関とICの必要性、周辺道路の現況及び整備方針の確認等の広域的検討を行う。
2 概略、詳細検討 H30
国・県・市・NEXCO東日本の関係機関において準備会（勉強会）を設立し、概略、整備効果及び必要性の検討を行う。
3 地区協議会の開催・実施計画書の策定、提出 H31
準備会（勉強会）メンバーに地域関係者等を含めた地区協議会を設立し、地域周辺も含めた整備内容を協議しながら実施計画書の策定をし、連結許可申請を添え国土交通省に申請をする。
4 連結許可 H31
国土交通省は、花巻市から提出された実施計画書を確認、精査した後、新規事業化を計画、整備計画の決定の後に花巻市に連結許可を行う。
5 工事着工 H32～H34
平成34年の供用開始を目指し、設計、用地買収、工事施工する。

市民参画の有無 〔 無 〕

市民協働の形態			
	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定
	後援・協賛	補助・助成	委託

	活動指標 （上記「事業概要」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	検討会	回	計画		1	
			実績		3	
②	準備会	回	計画		4	
			実績		3	
③			計画			
			実績			

	成果指標 （上記「意図」に対応）	単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	準備会の設立（国による準備段階調査の採択）	回	目標		1	
			実績		1	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			

成果指標の達成度		目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析
（新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）

【平成30年度事業分】
スマートインターチェンジ整備事業を推進する過程で、国による準備段階調査の採択が必要となる。採択されるためには必要性などの広域的検討を関係機関で行い、事業の有用性をまとめ上げなくてはならない。平成30年度前半にはスマートインターチェンジ整備の必要性を総括し、国による準備段階調査が採択されることを成果とした。採択後は準備会を設立し、具体的な概略検討や詳細検討を行った。

	評価項目		評価理由
目的妥当性	**公共関与の妥当性**		道路利用者の利便性、道路環境の向上、地域振興の観点で公共が関与することは妥当と認められる。
	○	妥当である	
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	**成果の向上余地**		スマートインターチェンジの整備にはある程度の地域醸成も必要である。
	○	向上余地がある	
		向上余地がない	
効率性	**事業費・人件費の削減余地**		必要最低限の経費で整備を目指している。
		事業費の削減余地がある	
		人件費の削減余地がある	
	○	どちらも削減余地がない	
公平性	**受益と負担の適正化余地**		道路は公共財であるため公正性は確保されている。
		受益機会の見直し余地がある	
		費用負担の見直し余地がある	
	○	適正である	

総合評価 …上記評価結果の総括

スマートインターチェンジの整備に向けては地域で作り上げる施設であることの動機付けがさらに必要である。

平成 30 年度 事業説明資料　　【　事後評価　】

担当部署　部名　建設部　　課名　道路課　　担当係長　齊藤　光政　内線　573

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業ｺｰﾄﾞ	事業名
一般	08	01	01	184610	**花巻スマートインターチェンジ整備事業**

単位：千円

		29年度 決算額(A)	30年度 決算額(B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費			9,936		9,936
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源		9,936		9,936

※特定財源の内訳

事業期間	○	単年度繰返		期間限定	〔平成　　年度　～　平成　　年度〕

部重点施策における目標

事業開始の背景・経緯

市道山の神諏訪線の整備が進み、当該地区の利便性が向上することに伴い、更に利便性を増すことを目的とし、東北縦貫自動車道花巻パーキングエリア内にスマートインターチェンジを整備するものである。

事業概要

1　広域的検討
　国・県・市・NEXCO東日本の関係機関とICの必要性、周辺道路の現況及び整備方針の確認等の広域的検討を行う。
2　概略、詳細検討　H30
　国・県・市・NEXCO東日本の関係機関において準備会（勉強会）を設立し、概略、整備効果及び必要性の検討を行う。
3　地区協議会の開催・実施計画書の策定、提出　H31
　準備会（勉強会）メンバーに地域関係者等を含めた地区協議会を設立し、地域周辺も含めた整備内容を協議しながら実施計画書の策定をし、連結許可申請を添え国土交通省に申請をする。
4　連結許可　H31
　国土交通省は、花巻市から提出された実施計画書を確認、精査した後、新規事業化を計画、整備計画の決定の後に花巻市に連結許可を行う。
5　工事着工　H32～H34
平成34年度の供用開始を目指し、設計、用地買収、工事施工する。

意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）

（単位：千円）

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は１文章程度にとどめること。】

花巻ＰＡスマートインターチェンジ整備検討資料作成業務委託：9,936千円